

議決権行使レポート

証券コード 4914

会社名 高砂香料工業

	賛成	反対	棄権
第1号議案 剰余金の配当の件	○		
第2号議案 取締役10名選任の件			
榊村 聡 氏	○		
野依 良治 氏	○		
山形 達哉 氏	○		
染川 健一 氏	○		
谷中 史弘 氏	○		
松田 浩明 氏	○		
水野 直樹 氏	○		
磯野 裕一 氏	○		
川端 茂樹 氏	○		
塚本 恵 氏	○		

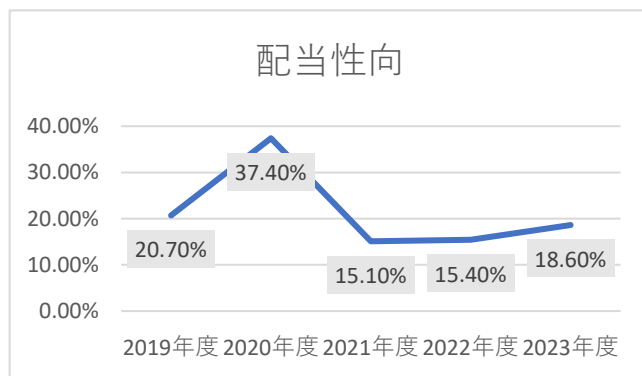
上記の推奨をした理由

第1号議案に関して：

高砂香料工業は、株主重視の経営を旨として、より高水準の利益を確保できる経営体質を目指し、安定配当の継続、並びに業績水準を勘案した配当を実施することを基本方針としている。高砂香料工業は図表1より、2018年度から2023年度にかけて配当性向は比較的安定しており、安定配当を継続しているといえる。2023年3月期の決算短信より、高砂香料工業の一株当たりの年間配当額は70円で、配当性向は18.6%を示している。よって、配当性向がISSの賛成基準の目安値である15%から100%のうちに収まっているため

賛成する。

図表1 配当性向と年間配当額



年度	年間配当額
2019年度	50円
2020年度	65円
2021年度	55円
2022年度	70円
2023年度	70円

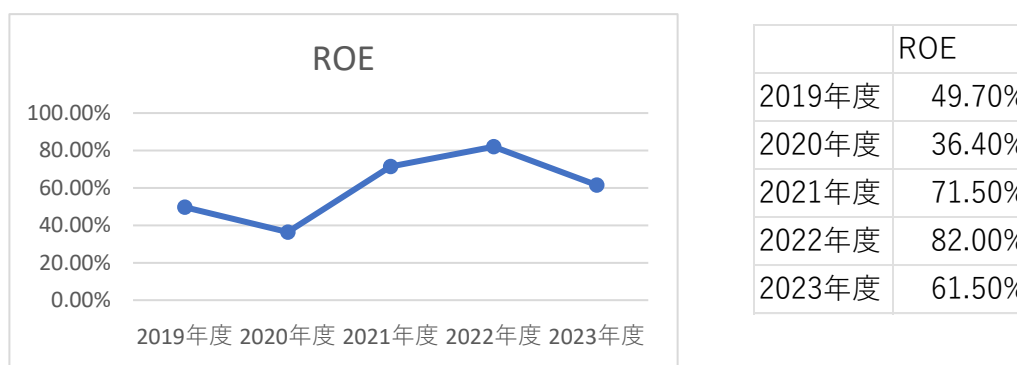
第2号議案に関して：

個別に回答する。

梶村聡氏について：

2014年から高砂香料工業の代表取締役として会社の経営に携わり、2018年からは代表取締役社長執行委員安全統括本部長を歴任している。所有する当社の株式は、25,509株で連結純資産に対する割合が0.12%と独占しておらず、ISS基準の20%未満を満たしている。以下の図表2は、高砂香料工業における過去5年間のROE（自己資本利益率）を示している。2019年度から2023年度にかけて、ISSの定める最低基準である5%を大幅に超えている。2022年度から2023年度にかけてROEが減少しているのは、原料価格の高騰およびインフレにより製造費、販売費が上昇したことで利益が減少したことが挙げられるので外的要因によるものと考えられる。したがって、梶村聡氏の選任に賛成する。

図表2 ROE



野依良治氏について、2001年にノーベル化学賞を受賞し、名古屋大学特別教授を兼任するなど有機合成化学の専門家である。東レ株式会社社外取締役を兼職しているが東レと高砂香料の間には特別な利害関係はなく、野依氏の取締役会の出席率は100%を誇り、ISS基準の75%を大幅に超えている。また、社外取締役員として客観的視点から、見識や経験に基づく助言が期待できるため、野依良治氏の選任に賛成である。

山形達哉氏について、主にフレーバー部門で長年の実務経験を有するほか、海外子会社にて要職を務めた経験もある。また、2017年から株式会社高砂インターナショナルコーポレーション代表取締役社長の要職を兼任している。取締役としての経験を十分に有するため、山形達哉氏の選任に賛成である。

染川健一氏について、主にフレーバー部門で長年の実務経験を有するほか、国内外問わず会社の要職を歴任している。染川氏が事業本部長を務めるフレーバー部門は、注力カテゴリーである飲料部門及びセイボリー部門が好調に推移し、高砂香料工業の2023年度3月期決算での売上高の成長に貢献している。よって、染川健一氏の選任に賛成する。

谷中史弘氏について、主に研究開発部門で長年の実務経験を有するほか、研究開発部長の要職を歴任している。研究開発部門は、中期経営計画の基本方針である海外の成長促進、国内の利益改善、サステナビリティの推進のこれら三つに則り、グローバルのニーズやオープンイノベーションも取り入れた基礎研究の強化を着実に進めている高砂香料工業の飛躍には欠かせない部門である。よって、谷中史弘氏の選任に賛成する。

松田浩明氏について、企業活動に関する法律の幅広い知識を有する法律専門家であり、虎ノ門法律第一事務所パートナー弁護士を兼職している。社外取締役役員である松田氏の取締役会への出席率は100%であり、ISS基準の75%を余裕で達成している。法律専門家として法的見地から、企業法務やコンプライアンス、コーポレートガバナンスに関する助言が期待できるため、松田浩明氏の選任に賛成である。

水野直樹氏について、主にフレグランス部門で長年の実務経験を有し、フレグランス部門の責任者として要職を歴任している。フレグランス部門は、注力カテゴリーであるエアケア、パーソナルケア、ファブリックケア及びマルチナショナル・主要ローカル得意先への経営資源の集中により好調に推移し、高砂香料工業の2023年度3月期決算での売上高の成長に貢献している。したがって、水野直樹氏の選任に賛成である。

磯野裕一氏について、主にフレグランス部門で長年の実務経験を有するほか、国内外で管理部門である人事・総務本部の責任者として要職を歴任している。それまでの経験の活用が期待できるので磯野裕一氏の選任に賛成である。

川端茂樹氏について、主に金融部門及び財務部門で長年の実務経験を有するほか、法人部門及び管理部門で要職を歴任している。したがって、川端茂樹氏の選任に賛成である。

塚本恵氏について、グローバル企業で長年の実務経験を有するほか、株式会社オークネット社外取締役役員を兼任している。塚本氏が今回の選任候補のうち、唯一の新任かつ女性の選任候補であり、塚本氏が今回選任することで、株主総会後の取締役会に女性を一人以上要するというISS基準が達成される。よって、豊富な海外経験を生かして、取締役会にグローバルで多角的な観点から意見を述べ、多様性を生み出していくことが期待できるので塚本恵氏の選任に賛成である。